

令和6年度

事業報告書

長寿科学研究等支援事業

(1) 長寿科学研究者支援事業

59,164,千円/58,229千円

R5（172,749千円）

(1)-1.長生きを喜べる長寿社会実現研究支援

内訳 44,063千円/43,135千円

R5（80,117千円）

令和4年度採択プロジェクト

貢献寿命延伸への挑戦！ ～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～

地域の中で役割や居場所を探す高齢者と、仕事やボランティア、生涯学習など様々な地域活動また、サポートを求める住民の声を有機的につなぐ情報プラットフォームとしてGBER（ジーバー）を開発し、地域での社会実装に取り組んでいます。本プロジェクトでは、GBERの機能を拡充し、各地域から抽出されたニーズを総合して、高齢者の活躍・貢献領域を拡大することを目指しています。

●プロジェクト代表者：檜山 敦（一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科・教授）

●採択分野・期間：実装研究（3年間） ●助成額：30,000,000円/90,000,000円 **終了**

■ プロジェクト成果報告会：2月27日（木）：

東京大学11号館長谷工KUMAホール

プロジェクト成果の社会還元・PR

<成果のアピール＝メッセージ>

■「貢献寿命」の認知度向上（一般、メディア、社会全般）

■GBER の利活用推進（自治体、政府関係者）

◎長生きを喜べる長寿社会の実現に向けては、次のことが重要！社会実装が求められる！

★貢献寿命の国民的理解！貢献寿命を意識した地域政策の展開！

★GBER の活用！地域力の強化、市民の well-being 向上策として

★中間支援組織の創造！多様な主体の連携、産官学民の共創！

GBERの意味は、

“Gathering Brisk Elderly in the Region”

「地域の元気高齢者を集める」

■最終報告会（審査評価委員会）3月12日（水）WEB開催

☆新たな長生きの価値：平均寿命、健康寿命 ⇒「貢献寿命」の概念構築と指標と尺度の開発

☆厚生労働省 高齢社会対策大綱（令和6年9月13日閣議決定）に掲載された（多世代による社会参加活動の促進）

☆中間支援組織の事業モデルを創造し、内閣府において公募事業とされる（横展開）

令和5年度採択プロジェクト

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と住民社会参加向上とスティグマ

軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証

産官学民の連携により、認知症などで社会生活機能に低下のある人々や地域住民が自然に参加したくなる施設を作り出すことで、認知症への偏見を減らし、誰もが幸福で健康に過ごせる社会

を目指しています。プロジェクト名「UniCo(ユニコ)」

●プロジェクト代表者：斎藤 民(国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部・部長)

●採択分野・期間：探索研究(2年間) ●助成額：10,000,000円/20,000,000円 **終了**

● プロジェクト成果報告会

NCGG-UniCo シンポジウム 3月14日：ウインクあいち

UniCoプロジェクト成果・進捗報告

- ① 認知症の人はどこに出かけるか
- ② 認知症の人と一緒にまちを歩いたら
- ③ 認知症にやさしい表示方法やレイアウト
- ④ 認知症の人と楽しむ交流プログラム
- ⑤ 認知症の人や家族と創る「やさしいトイレ」

プロジェクトの総括と今後

ゲスト講演

「認知症になっても
買い物を楽しめる
スローショッピング」

医療法人館 この神経内科・
脳神経科クリニック

紺野敏昭先生

スローショッピングの
開発経緯と
これまでの経験を
お話しいたします

成果・進捗報告

UniCoプロジェクト
2年間の
取り組みについて

お申し込み方法

右の二次元コードより、申し込みフォームにアクセスしていただき、
必要事項をご記入の上、送信をお願いいたします。
お電話、メールでの申し込みも可能です。詳しくは裏面をご覧ください。



■最終報告会(審査評価委員会)3月12日(水)WEB開催

☆認知症の方の道歩き、外出行動同定、まち歩きの分析から学会発表、勉強会(トイレ・サイン・排泄WG)企業参加数延べ31社、

☆愛知県大府市の健康交流施設(令和8年度開館)にUniCoコンセプトを活用導入予定

令和7年度採択プロジェクト

●令和6年5月公募要領公開

7月3日応募受付開始：7月31日締め切り

応募34件(書類不備による不受理2件)

審査評価委員による1次審査会(9月26日)

●2次審査会(10月28日)

1次審査通過2件、ステップアップ1件(実装研究：上限3,000万円/年間*3年)

1. エビデンスに基づく認知症予防プログラムの社会実装～高齢者のQOL向上と持続可能なコミュニティ支援の確立～：櫻井 孝(国立長寿医療研究センター)
2. 健康長寿をサポートするデジタルヘルスケアサービスの社会実装：久恒 辰博(東京大学)
3. ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と住民社会参加向上とスティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証：斎藤 民(国立長寿医療研究センター)

●最終審査会(11月27日) 上記候補のうち、議論、採点ののち最終候補 1件選定

1. エビデンスに基づく認知症予防プログラムの社会実装～高齢者のQOL向上と持続可能なコミュニティ支援の確立～：櫻井 孝(国立長寿医療研究センター)

■採択内定者と助成金交付契約書案調整、プロジェクト計画書等の提出

理事会(3月6日)報告・承認後契約 令和7年4月1日 プロジェクト開始

●提案団体

提案	数
大学	16
企業	9
研究機関	6
NPO 法人	1
一般社団法人	1
公益財団法人	1
合計	34

複数の提案があった同一機関	数
東京都健康長寿医療センター研究所	3
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター	2
大阪大学	2
東京大学	2
合計	9

長寿科学研究者支援事業 審査評価委員会

委員長	駒村 康平	慶應義塾大学経済学部 教授
副委員長	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター 教授
委員	秋下 雅弘	東京都健康長寿医療センター センター長
委員	阿久津 靖子	一般社団法人日本次世代型先進高齢社会研究機構 代表理事
委員	鎌田 実	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長
委員	近藤 克則	千葉大学予防医学センター 特任教授 医療経済研究機構 研究部長
委員	佐藤 久恵	学校法人国際基督教大学 評議員
委員	長谷川 友紀	東邦大学医学部 教授

(1)-2.高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成（Google寄附事業）

採択プロジェクト

助成最終年

15,101千円/15,094千円

R5 (92,633千円)

■ 中間報告会の開催 11月30日(土) 名古屋コンベンションホール

① 高齢者のスマートフォン利用促進を介したアクティブライフ・コミュニティの形成

高齢者に対してスマートフォン利用促進のための教室を地域ボランティア(デジタルヘルス推進員)を介して開催し、アプリを活用して高齢者の活動性向上を支援するコミュニティを形成し、健康寿命延伸に対する効果を検討することを目的とした。

●プロジェクト代表者:島田 裕之

(国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター・センター長)

●研究期間:2年間 ●助成額:49,998,000円

② “学び合い”プログラムを用いたデジタルスキルラーニング・エコシステムの開発と実装

～多世代型互助によるスマート・インクルージョンの実現～

多くの高齢者が社会とのつながりを感じつつ、楽しくデジタルリテラシーを向上するために、高齢者のニーズを調査し、修得プロセスが生きがいの創出・ウェルビーイングの向上に寄与するエコシステムを開発します。この方策の持続可能性を実現し実装した。

●プロジェクト代表者:瀧 靖之

(東北大学 スマート・エイジング学際重点研究センター・センター長)

●研究期間:2年間 ●助成額:50,000,000円

③「ジョブボラ」の創出とデジタルマッチングの実装に向けた研究:誰もが活躍できる社会を目指して

高齢者と仕事・ボランティア(ジョブボラ)のマッチングを高めるため、高齢者にとって使いやすいアプリ開発に加え、多種多様なジョブボラの機会を提供し、ジョブボラ機会の獲得を支援する仕組みを構築した。

●プロジェクト代表者:村山 洋史

(東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム・研究副部長)

●研究期間:2年間 ●助成額:49,620,972円

高齢社会課題解決研究助成 審査評価委員会

委員長	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
副委員長	葛谷 雅文	名鉄病院 病院長
委員	大高 洋平	藤田医科大学医学部 主任教授
委員	篠崎 尚史	国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐
委員	鈴木 みずえ	浜松医科大学臨床看護学講座 教授

(2) 長寿科学関連国際学会派遣事業

2,792千円/2,787千円

R5 (0円)

長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、優れた研究成果をあげた若手研究者又は有望な研究を行う若手研究者に、海外で開催される関連する学会に参加する費用を助成します。(1人20万円 10人程度)

長寿科学関連国際学会派遣事業審査委員会設置及び選考

- 申請要領の公開 4月17日(水) (展示会・大学等各機関にチラシ配布)
- 対象国際学会開催期間 9月1日(日)～令和7年3月31日(月)
- 申請書受付期間 5月15日(水)～6月30日(日)
- 審査委員会開催 7月22日(月)
応募件数:13件 採択9件
国際学会派遣国 アメリカ3、イギリス2、フランス2、韓国1、オーストラリア1
- 令和7年度の学会派遣公募 11月1日(金)～令和7年1月5日(日)
- 審査委員会開催 令和7年2月3日(月)
応募件数:5件 採択3件 (令和7年度事業計画に名簿等掲載)
令和7年度の公募については、年間2回公募・審査とすることとした。

長寿科学関連国際学会派遣事業 審査委員会

委員長	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
副委員長	秋下 雅弘	東京都健康長寿医療センター センター長
委員	石神 昭人	東京都健康長寿医療センター研究所 副所長
委員	上田 貴之	東京歯科大学 老年歯科補綴学講座 教授
委員	亀井 美和子	帝京平成大学 薬学部長
委員	斎藤 民	国立長寿医療研究センター 老年学社会科学研究センター 部長
委員	真田 弘美	石川県立看護大学 学長

(3) 若手研究者表彰事業

0円/0円

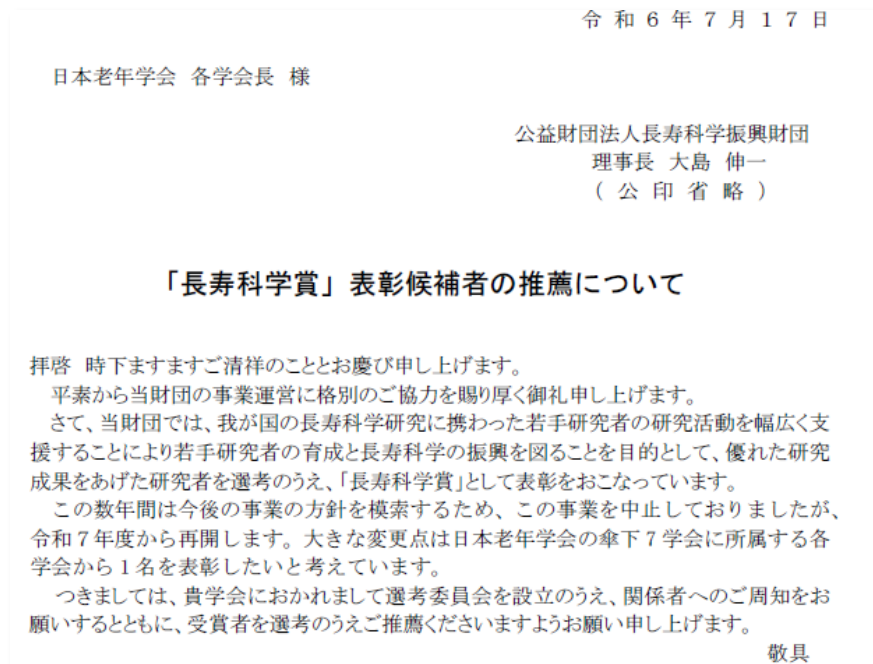
R5 (0円)

長寿科学研究に携わる若手研究者の研究活動を幅広く支援することにより若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的とし、優れた研究成果をあげた研究者を選考のうえ、「長寿科学賞」を贈呈するとともに、副賞の交付をおこないます。

【日本老年学会】

- 1) 日本老年医学会
- 2) 日本老年社会科学会
- 3) 日本基礎老化学会
- 4) 日本老年歯科医学会
- 5) 日本ケアマネジメント学会
- 6) 日本老年看護学会
- 7) 日本老年薬学会

●「長寿科学賞」表彰候補者の推薦について依頼



若手研究者表彰事業 概要

- (1) 令和7年6月27日(金)第34回日本老年学会総会において授賞式を開催する
- (2) 対象者は授賞式時に原則として43歳未満の老年学会の各学会員(7学会)
- (3) 対象者は日本老年学会を構成する7つの学会のいずれか1つの学会に申請する
(複数の学会への申請は認めない)
※複数学会への応募が判明した場合、対象者は失格とする
- (4) 各学会にて審査、選考のうえ各学会から1名(合計7名)を長寿科学賞受賞候補者とする
- (5) 受賞者には表彰状、盾、副賞(研究助成金:100万円)を贈呈する
- (6) 本事業にかかる経費は長寿科学振興財団が負担する
- (7) 詳細は後日、日本老年学会と長寿科学振興財団にて調整する

●令和7年1月末:各学会から審査・選考された「長寿科学賞」候補者推薦書受領

2月末:抄録提出期限 第34回日本老年学会総会

令和7年度事業計画に名簿等掲載

※3月の理事会承認により令和7年度「長寿科学賞」受賞者となりました。

(1) 業績集の発行事業

令和6年度の事業は休止。令和7年度以降は機関誌の発行事業に統合。

＊事業の統合について3月の理事会後、内閣府へ変更届を提出した。

(2) 機関誌の発行事業

14,939千円/14,502千円

R5（15,179千円）

WEB版機関誌「Aging&Health（エイジングアンドヘルス）」を財団ホームページと健康長寿ネット
で年4回（春・夏・秋・冬）発信します。109号～112号 発刊（web掲載）しました。

No.	巻号	主なコンテンツ
112		- 特集：孤立した高齢者の生活を支える - インタビュー：NPO法人仙台敬老奉仕会理事長 吉永 馨 - 地域の鼓動：福岡県宗像市 ひのさと48 まちの賑わいをつくり出す日の里団地再生プロジェクト
111		- 特集：高齢者の食事と栄養 - インタビュー：病理学者、予防栄養学者 家森幸男 - 地域の鼓動：静岡県袋井市 とれたて食楽部、Honey！ハニー！！ 通いの場×移動販売でこころと体の健康増進！ 愛知県豊田市 株式会社SMIRING 高齢者や障がい者が地域と若者を支える食堂～スマイリングキッチンLABO～
110		- 特集：自然に健康になれる環境づくり - インタビュー：喜劇役者 大村 崑 - 地域の鼓動：兵庫県宝塚市 働くことで健康になる～健康・生きがい就労トライアル～ 神奈川県川崎市 NPO法人ホッとスペース中原 教会を拠点にした地域福祉の居場所
109		- 特集：認知症の治療・予防・早期発見 - インタビュー：映画字幕翻訳者 戸田奈津子 - 地域の鼓動：愛知県大府市 認知症サポーター養成2万人チャレンジ達成！～認知症不安ゼロのまちづくり～ 福島県いわき市 老いや死のタブーを乗り越える～igokuプロジェクト～

(3) 健康長寿ネット事業

5,210千円/4,570千円

R5 (6,163千円)

主なコンテンツ

●健康長寿とは:自分でできる健康長寿のための情報について

●高齢者の病気:高齢者に多い病気・症状について

●高齢者を支える制度とサービス:介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介

●インタビュー・対談・特集・研究情報:機関誌で取り上げた記事を紹介

●エッセイ:機関誌で取り上げたエッセイに加え、健康長寿ネットだけの井口昭久先生と宮子あずさ先生の連載エッセイを掲載

■メールマガジンの発行（年12回程度）

現在:16,736名の登録(3/31現在)

■ホームページ関連委託

運用保守業務委託

品質検証等支援業務委託

アクセシビリティの規格 WCAG 2.0(JIS X8341-3:2016)「適合レベルAA」一部準拠



(3) - 1. 掲載内容と記事数 (令和7年3月末)

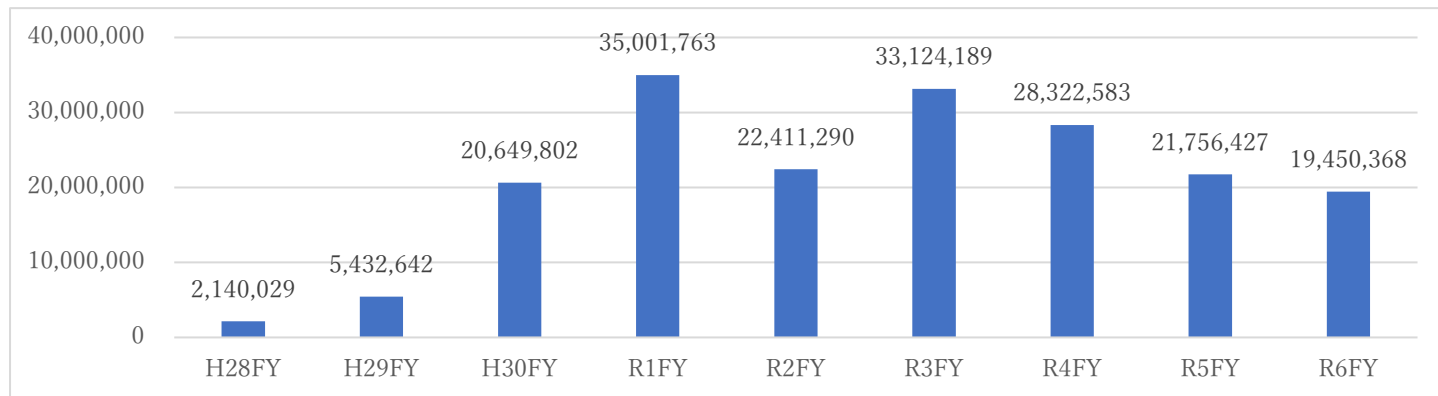
項目	内容	記事数
健康長寿とは	「高齢者の食事摂取基準」「運動器の老化」「日本人はなぜ長生きか」「高齢者の生きがい」など 自分でできる健康長寿のための情報を紹介	382
高齢者の病気	「サルコペニアとは」「フレイルとは」「老年症候群」「認知症」「肺炎」など 高齢者に多い病気・症状をわかりやすく解説	423
高齢者を支える制度とサービス	「認知症高齢者の日常生活自立度」「地域包括支援センター」「地域密着型サービス」など 介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介	173
対談・特集・研究情報	財団機関誌「Aging & Health」から対談・特集・研究情報を転載掲載および事務局企画による特集記事を掲載	451
エッセイ	井口昭久先生のエッセイ「老いをみるまなざし」、宮子あずさ先生「訪問看護師から老いをみると」、他、財団機関誌「Aging & Health」からエッセイを転載	252
インタビュー	財団機関誌「Aging & Health」から「いつも元気、いまま現役」を転載	38
介護予防のための生活機能チェック	介護保険法による「基本チェックリスト」に基づく、介護予防のための生活機能チェック(25問)をインターネット上で提供	39
合計		1,758

(3) - 2. 健康長寿ネットの著作物等の引用転載(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

健康長寿ネットからの利用申請件数：46件（令和5年度：29件、令和6年度：17件）

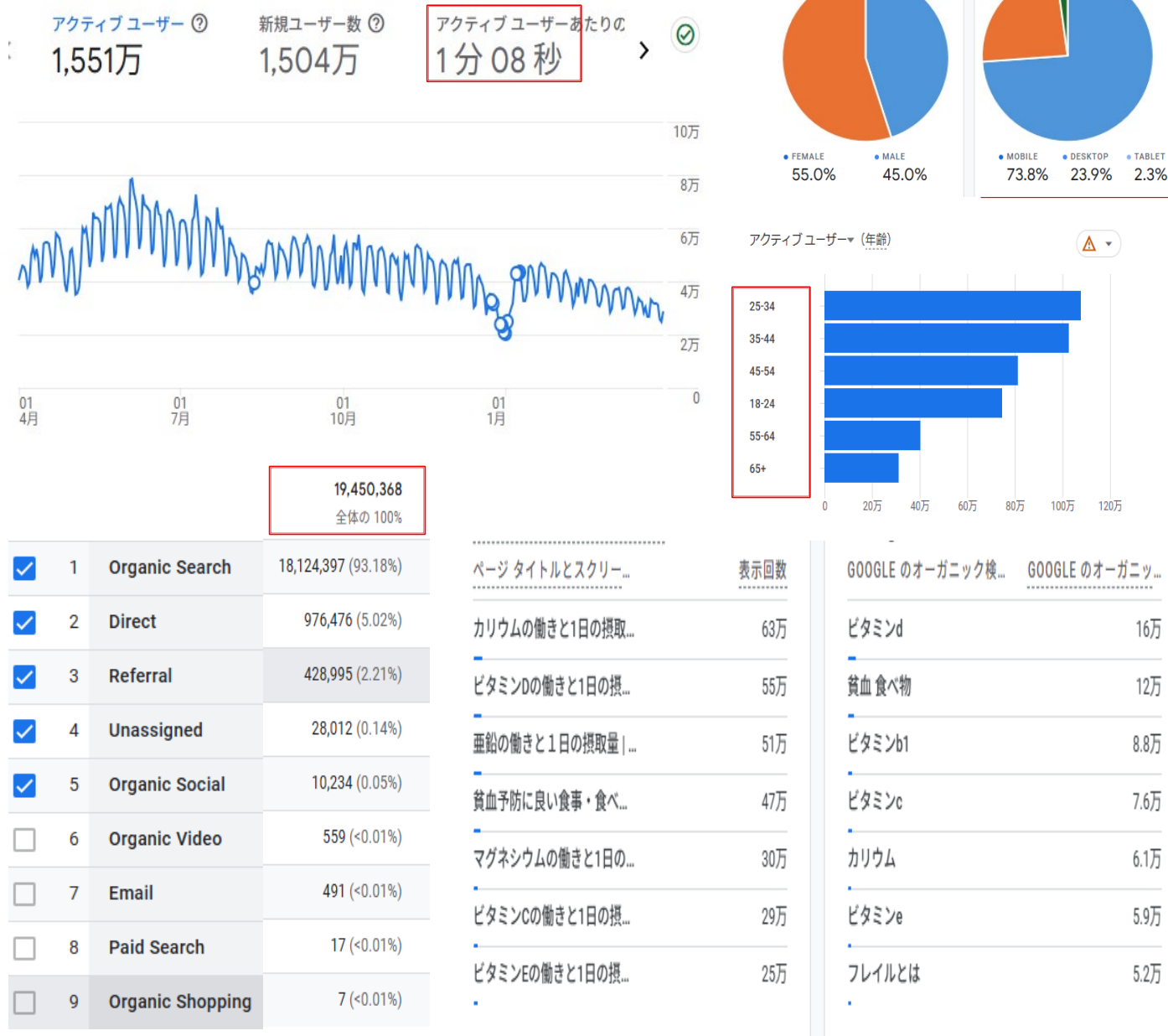
引用転載にかかる収入（雑収入）株式会社Gakken 5,500円×2件 合計11,000円

(3) - 3. アクセス数推移



H28 リニューアル H30.R1：記事充実 R2.3：コロナ特集・栄養素追記

(3) - 4. 年間分析 (GA4)



広報委員会の開催

機関誌、健康長寿ネット等財団の広報について審議をするために広報委員会を設置。
当財団の公益目的事業2【情報提供事業】に関する必要な事項を定める委員会

■第1回広報委員会開催 10月25日(金)

- ・機関誌「Aging&Health」113号～116号執筆「テーマ・候補者」等
- 長寿に関わる研究について専門家が分かりやすく解説 -特集テーマ-
113号(春) テーマ:「高齢者のデジタルデバイド解消プロジェクト」(Google寄附事業)
114号(夏) テーマ:「貢献寿命の延伸」(令和4年度長生きを喜べる長寿社会実現研究)
115号(秋) テーマ:「認知症アクションプラン・施策推進基本計画」
116号(冬) テーマ:「新高齢者総合機能評価ガイドラインに基づく診療・ケア」
- 高齢になっても活躍されている著名人へのインタビュー 各号1名
・95歳古民家再生建築家 ・95歳世界最高齢スピードスケーターなど
- 各地域で高齢者に関わる取り組みを紹介 -地域の鼓動- 各号2ヶ所
・山形市(健康寿命をのぼそうアワード受賞) ・東京三鷹市(NPOシニアサロン)など
- 長寿科学に関する最新研究情報 (各号監修:井藤 英喜 広報委員会委員長)
- エッセイ(各号) 鎌田 実(一般財団法人日本自動車研究所長・審査評価委員会委員)
佐藤 眞一(大阪大学名誉教授・広報委員会委員)

広報委員会委員

委員長	井藤 英喜	東京都健康長寿医療センター 名誉理事長
副委員長	鳥羽 研二	東京都健康長寿医療センター 理事長
委員	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター 教授
委員	飯野 奈津子	医療福祉ジャーナリスト
委員	櫻井 孝	国立長寿医療研究センター 研究所長
委員	佐藤 眞一	大阪大学 名誉教授
委員	柳澤 信夫	一般財団法人 全日本労働福祉協会 会長

(4) 長寿たすけ愛講演会開催事業

令和6年度事業は休止。令和7年度以降は長寿科学研究普及事業に統合。

＊事業の統合について3月の理事会後、内閣府へ変更届を提出しました。

(5) 長寿科学研究普及事業

4,014千円/4,013千円

R5 (1,714千円)

■ 第19回国立長寿医療研究センター国際シンポジウム

日程:11月30日(土) 10:00~17:30 場所:名古屋コンベンションホール

テーマ:Digital Healthcare: Bridging Health, Medicine and Welfare

(デジタルヘルスケア: 健康、医療、福祉の橋渡し)

Google寄附事業の発表会を午前中に併催、ハイブリッド開催(WEB・同時通訳あり)

セッション1. 日本のヘルスケア政策

座長: 島田 裕之 (国立長寿医療研究センター)

1-1. 「日本のヘルスケアについて」 橋本 泰輔 (経済産業省商務情報政策局)

1-2. 「あいちデジタルヘルスプロジェクトについて」 柴山 政明 (愛知県経済産業局)

セッション2. ICT ドリブンの健康長寿社会 (公益財団法人長寿科学振興財団「高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成採択プロジェクト」企画)

座長: 葛谷 雅文 (名鉄病院)、斎藤 民 (国立長寿医療研究センター)

挨拶: 加山博規 (Google ジャパン)

2-1. 「高齢者のスマートフォン利用促進を介したアクティブ・コミュニティの形成」 島田裕之 (国立長寿医療研究センター)

2-2. 「"学び合い"プログラムを用いたデジタルスキルラーニング・エコシステムの開発と実装
～多世代型互助によるスマート・インクルージョンの実現～」 瀧 靖之 (東北大学)

2-3. 「「ジョブボラ」の創出とデジタルマッチングの実装に向けた研究: 誰もが活躍できる社会を目指して」
村山 洋史 (東京都健康長寿医療センター)

ランチョンセミナー

座長: 大寺 祥佑 (国立長寿医療研究センター)

「How to promote production and use of healthcare big data」 黒田 知宏 (京都大学)

セッション3. デジタルヘルスケアとビッグデータに関する社会制度と臨床への展開

座長: 黒田 知宏 (京都大学)、大西 丈二 (国立長寿医療研究センター)

3-1. "Finnish National Archive of Health Information and private use; KanTa"
Jarmo Reponen (University of Oulu)

3-2. "Start of Long-term Care Information System for Evidence (LIFE)" Takehiko Doi (National Center for Geriatrics and Gerontology)

3-3. Liang-Kung Chen, National Yang Ming Chiao Tung University

3-4. US National Academy of Medicine's Global Roadmap for Healthy Longevity and Singapore is to implement it John Eu-Li Wong, National University of Singapore

セッション4. Progress of Digital Healthcare

座長: 笹井 浩行 (東京都健康長寿医療センター)、大塚 礼 (国立長寿医療研究センター)

4-1. An Attempt to Discriminate Frailty from Life-log data via Wearable Devices 大淵 修一 (東京都健康長寿医療センター)

4-2. 「高齢者の健康保持のためのデジタル技術の応用」 高野映子 (国立長寿医療研究センター)

4-3. Kim Delbaere, (Neuroscience Research Australia)

セッション5. 基調講演

座長: 荒井 秀典 (国立長寿医療研究センター)、永井 良三 (自治医科大学)